特定非営利活動法人ブッダ基金

第 20 期（令和 2 年 8 月 1 日から令和 3 年 7 月 31 日まで）の事業報告

医療福祉支援事業

■子どもの眼科検診プログラム

【今までの経緯】
BCML で学校を訪問する際に、眼科検査技師が同行してリーディングキャンプ中に眼科検診を実施。
Himalayan Eye Hospital Pokhara が検査技師の手配、器具、技術的支援を行った。眼科検診は年間 24 回実施予定であったが学校との調整が前年度期末までにできていなかったため、19 期は未実施。
【今期】
BCML で学校を訪問する際に、眼科検診ボランティアが同行して子どもたちの眼科検診を予定していたが、コロナにより、今期は開校期間が非常に短く未実施。

教育支援事業

■こども移動図書館プロジェクト(BCML)

【今までの経緯】
第 12 期から、ネパールの山間部に位置する村や学校に本を届ける（貸し出す）プロジェクトを実施。2017 年 6 月に拠点図書館を移転し、ポカラの中心部の比較的学校から近い場所を拠点とし、日本から送った移動図書館車「にいみ号」により山間部の学校に本を届ける活動を継続。従来の蔵書パックを学校に届ける活動は参加各校年間 5 回、 1 回あたりの貸し出し期間は 2 か月とし、2017 年 12 月末から”Reading Camp”を通常プログラムとして実施。従来からの活動に加え 18 期から始まった文具支援、眼科検診以外に学校と地域住民の自立支援のために、国立紅茶・コーヒー委員会と協働でコーヒー栽培ノウハウの講習をガルミ村の Mahendra Secondary School で実施。すでにコーヒー栽培を始めた参加者もいる。

＜活動内容＞
① 文具支援事業
【前期】
読書キャンプで訪問する低カースト家庭の児童が通う学校で良い発表をした生徒に対し文具を贈呈した。
HBF の予算を半額しか承認しなかったため、19 期は単純に行く先々で配布することはせず、良い発表をした生徒に限定した。
2019 年度の実績
支援内容：ノート、ペン、鉛筆
受益校：43 校　　受益者数:　2067 名
ノート配布：8113 冊
ペン、鉛筆配布：2067 本
【今期】
今期は 2020 年 12 月 16 日に開校後、2021 年 3 月頃まで様子を見ながら開校していたが、4 月頃からインド株の蔓延により再びロックダウン、戒厳令となり通常通りの事業は 50%以下の実施率となった。その中でも、開講中読書キャンプ、文具配布以外に緊急支援をいくつか行った。緊急支援については別途報告参照。

2）バガワティ小学校　コーヒー園

【今までの経緯】
2009 年 1 月にバガワティ小学校の運営費捻出のためにコーヒーの木を 1400 本植樹し始まったプロジェクト。NGO ヘラロ・アカデミーと協力し、学校の裏庭にコーヒー園を造成。その後、溜池増設工事、学校校舎裏の木の伐採工事（日照確保のため）などコーヒー園の環境改善に取り組んできた。「品質の維持」、「収穫量の向上」、「学校の運営費捻出」が課題であった。2017 年から収穫量は徐々に向上し、2018 年には生豆にして約 500kg、2019 年は 750kg の収穫があった。学校の年間運営資金は最低 NRs.160,000 必要。
2015 年末に支援終了の予定であったが、2018 年まで延長し、金銭的な支援は終了するがマネージメントは販路開拓が軌道に乗り、安定するまで継続して関わる。
2019 年 2 月に UCC を訪問し、上島会長、若山部長と面会し、以前からバガワティ産の豆購入にご協力いただけるとのことから 18 期は実務者レベルに話を落とし込んだ。ジャガン氏の協力により 2019 年 9 月に航空便にて羽田で通関し、生豆 200kg（20kg×10 袋）を単価 1,900 円/kg の合計 380,000 円で UCC に販売。この価格はスペシャルティーコーヒーの価格に匹敵する。実際ジャガン氏が来日中にテスティング依頼をしたところ、ぎりぎりスペシャルティーコーヒーに入ることを確認。今回の UCC との取引を機に社会貢献活動としてネパールでコーヒー栽培の講習を 5 月派遣団で現地の学校で実施する計画だった。残念ながら、コロナのため延期。
【今期】
今期生豆収穫は１５０ｋｇ
水牛２頭
コーヒーの木 1100 本
生徒数１２０名
近隣住民は５００本の木を植えている。

3)ヘラロ奨学金事業

【今までの経緯】
2016 年のネパール地震により、被災した子どもの教育支援として 2018 年 4 月に本事業運営資金としてブッダ基金から NRs.100 万をヘラロ・アカデミーに供与した。2018 年 5 月から 2019 年 4 月まで資金運用し、年利 12%で得られた利息を奨学金として事業を実施する。PJ は 2019 年 4 月から開始された。コロナによる学校閉鎖のため、学校からの報告がヘラロに未着。具体的な報告は後日。
【今期】
コロナのため活動休止中

4）スポーツ普及プロジェクト

【今までの経緯】
ネパールでは、体育の教師が少なく（地方の小学校は特に）、広い校庭がない学校が多いことから、スポーツに親しむ機会が乏しい。
また、ネパールでは地域が学校を運営していることを鑑み、学校と地域のつながりをより密にすることを狙い、学校を中心に地域の大人も参加するような「運動会」のようなイベントを実施したいと考えた。
18 期から、最初の事例としてバガワティ小学校で擁壁工事終了後に「運動会」を開催。19 期も 5 月に計画していたがコロナにより中止となった。
【今期】
20 期は引き続きコロナのため中止。

女性の自立支援事業

１）ヒマラヤ・クッキープロジェクト

【今までの経緯】
ネパールの GDP で最も大きい割合を占める農業と観光産業。貧困の中で暮らす女性の自立支援を農業・観光と結びつけることで収益事業化を図る。ネパールの特産であるコーヒー、紅茶、ピンク岩塩、ヒマラヤ蜂蜜、ジンジャー、ヤクチーズ を用いて作ったクッキーの販売を行う。ネパールはいわゆる、ばらまき型のお土産がほとんどなく、お土産文化があるアジア系の観光客への販売が見込める。また、カフェ文化の黎明期であるネパールには日本のような美味しいスイーツがなく、ヒマラヤ登山の入り口であり多くの海外からの観光客が訪れる我々の活動拠点のポカラはカフェ、レストラン、ホテルにも導入を見込める。
ネパールは観光産業が発達している割には旅行者が気軽な土産として購入して会社や友人に簡単に配れるものがない。
パシュミナ、ミティラー・アートやイラム紅茶などはそれぞれ素晴らしい品物だが、個人消費に向きばらまき型のお土産にはならない。購入しそうなアジア系潜在顧客は年間約 16 万人。約 13 万人いる欧米系観光客には社会的支援をアピールしストーリー性を持たせることにより販売を伸ばせることが期待できる。（産業形態が似ているインドネシア・バリ島のバロンクッキーからヒントを得た。）想定している購入しそうな潜在顧客は年間約２９万人。
ネパールの現地パートナーであるジャガン氏の 3 か所のコーヒーショップとカトマンズの土産物店、コンビニでも販売を開始。観光シーズンには一日に 10 箱のオーダーが入ることもあり、導入から 1 年でようやく観光客や常連客に売れ始め販売の基礎ができ始めた。1 月には 2020 年 Visit Nepal に向け新商品のマドレーヌのレシピを開発し、シャリカさん、スマさんが浜松で研修。帰国後シャリカさんがラチャナさんにレシピと作り方を教え、食品衛生局に検査と販売ライセンスを申請。その直後からコロナによりネパールロックダウンとなり今現在は生産・販売を停止している。FY1920 の収支報告は別紙参照。
【今期】
コロナのため休止中

海外派遣事業

【今期】
コロナのため中止

その他の事業

1） 緊急支援活動
【今期】
COVID19 緊急教育支援活動報告書
2020 年 7 月

プログラムの目的：Covid-19 でロックダウン中に教科書の自習を行う学生を支援するため。
実施機関：ポカラ首都圏教育委員会
現地支援機関：HBF
資金提供機関：ブッダ基金（日本）
プログラム内容：自宅学習の際の教科書副教材としての自己学習宿題問題集とマニュアルの無料配布

プログラムの対象範囲：ポカラメトロポリスの 170 の学校で勉強している 7223 人の 1 年生から 3 年生
プログラムの費用：NRs.300,009.53
配布プログラムに参加する VIP：ポカラ市長　Man Bahadur GC 氏、HBF 理事長 クマール・グルン氏

本プログラムは、2020 年 7 月 26 日、カリカ村から開始され、リソースセンターから学校の校長に自己学習の本が渡された。式典には、ポカラ大都市圏の市長、マン・バハドゥール G.C 氏、教育部門の職員、ポカラ大都市圏、地元の代表者、学校の教師と校長が出席。最初の引き渡し式後はロックダウンのため、教育委員会の職員が残りの配送業務を担当した。

■プログラムの成果：生徒たちは毎日の作業計画が書かれた宿題用問題集を配布されたことにより、
生徒が自主的に教科書を自習するのを助け、学習の動機付けをし、コロナ禍のロックダウン中でも、実りある学習ができた。

COVID19 緊急衛生支援活動報告書
2021 年 1 月

■ポカラ教育委員会から市内の主だった NGO, NPO に対し、学校再開に向けた学校衛生用品の寄付の要請があった。

■支援内容
＊マスク 28600 枚（小 285 箱、大 285 箱；1 箱あたり 50 枚で合計 28600 枚）
＊消毒剤 50 リットル
＊石鹸 409 個

■経費
＊NRs150,000

HBF はブッダ基金の支援により、2021 年 1 月 18 日に支給拠点から 18 校に衛生支援物資を配布した。 式典にはポカラメトロポリス市長兼教育部長が出席。市長は BFJ と HBF の貢献に非常に感謝し、
HBF 理事長のクマール・グルン氏、会計係のビショウ・グルン氏と理事のナラヤン・グルン氏が式典に出席。

緊急食糧支援活動報告書

■ニイミ・ブッダ基金メンバー（ロッシュ氏、メッシュ氏、ジャガン氏）からの提案で
Dashain 前に貧困層の学校に食糧支援を打診される。
■3 校の最貧層家庭に合計 NRs.30 万緊急食糧支援を理事長判断で決済。

＜第 1 日目＞
学校：Shree Panchayjoti Basic School
場所：Kalesti ,Byash Municipality 7
日付：19 October 2020
生徒数： 49

世帯数： 40
配給物資：
1）米（各 25 Kg ）、計 40 袋
2）食用油（各 1 ﾘｯﾄﾙ ）計 40 ﾘｯﾄﾙ
3）塩（各 1 kg ）:計 40 ｷﾛ
4）豆（各 1 kg ）計 40 ｷﾛ
5）マスク（各 3 枚）合計 47 枚
6）石鹸（各 6 個 ）合計 292 個

費用合計 NRs 104,809

＜第 2 日目＞
学校：Yuba Barsha Basic School
場所：Furshekhola,Pokhara Metropolitan-21
日付： 21 October 2020
生徒数： 60
世帯数：38
配布物資：
1）米（各 25 ｷﾛ ）計 38 袋
2）食用油（1 ﾘｯﾄﾙ ）計 38 ﾘｯﾄﾙ
3）塩（各 1 ｷﾛ ）計 38 ｷﾛ
4）豆（各 1 ｷﾛ ）計 38 ｷﾛ
5）ﾏｽｸ（各 3 枚）計 180 枚
6）石鹸（各 6 個 ）計 360 個

費用合計 NRs 105,470

＜第 3 日目＞
学校：Himalay Dafe Basic School
場所：Karuwa, Machhapuchre V.D. C -1
日付： 22October 2020
生徒数： 30
世帯数： 26
配布物資：
1）米（各 25 ｷﾛ ）計 26 袋
2）食用油（各 1 ﾘｯﾄﾙ ）計 26 ﾘｯﾄﾙ
3）塩（各 1 ｷﾛ ）計 26 ｷﾛ
4）豆（各 1 ｷﾛ ）計 26 ｷﾛ
5）ﾏｽｸ（各 3 枚）計 90 枚
6）石鹸（各 6 個）計 180 個

費用合計 NRs 87,700

以上